

# 円光寺



本堂外観



本堂内陣

## 【熊谷説教所略歴】

熊谷の円光寺は、明治初期の熊谷県時代に浄土真宗の説教所として創設されました。

当時の熊谷県令（今でいう県知事）損取素彦は、妻・寿子の熱心な勧めを受け、築地本願寺に明如上人を訪ね、しかるべき教導職を熊谷県に派遣して開教されるようお願いしました。

これは、県令・県令夫人ともに御法義篤い山口の地に生まれ育ち、特に吉田松陰の妹である県令夫人・寿子は、幼少の頃よりお念仏のみ教えの中で育つたため、真宗寺院も無い熊谷の地に、親鸞聖人のみ教えを広めたいとの願いからでした。

これを受け種々協議の結果により、山口県人の小野島行薫が適正と認められ、熊谷県に派遣され赴任いたしました。

しかし、無教地とも言うべき熊谷県地方に一人から真宗のみ教えを伝え広めるのは険しく、幾多の苦節困難がありました。

そこで、行薫は教会結社の方法で門信徒勧誘の道をひらくことを協議し、酬恩社と名づけた結社を組織いたしました。その結社における活動により、各地に説教所が設立されたのです。

その中の一つ、熊谷に説教所が出来たのが、明治九年三月であります。

## 【寺号公称】

明治に設立された説教所が円光寺を公称したのは、大正二年（一九一三年）四月五日です。

元来の円光寺は江戸時代初期、元和二年（一六一六年）了勝が開基となつて、江戸本郷に創立されました。そして明暦三年に築地に移転し、以後二五

〇年余り築地にありましたが、大正二年熊谷に移転するという形をとりまして、熊谷の説教所が円光寺を公称する事となりました。

## 【熊谷空襲と御本尊】

太平洋戦争終戦前夜の昭和二〇年（一九四五年）八月十四日、熊谷は米軍による空襲によって二百六十六人が死亡、約三千人が負傷する中、円光寺も灰燼に帰りました。

しかしながら御本尊の阿弥陀如来（御木像）だけは、防空壕の中に於いて、焼失を免れたのです。

## 【現在】

戦後昭和二十八年（一九五三年）年、宗教法人の認可を受け、昭和三十一年（一九五六年）に熊谷市戦災復興計画により筑波地区から現在地である銀座地区に移転し、現在に至ります。

## 【恒例行事】

報恩講 十一月八日

永代経 五月八日

修正会 一月一日

法話会 毎月二回（昼の法座 毎月八日／夜の法座 毎月二十七日）

以上の法要・行事等々を以て寺院活動に勤めております。